

衛星リモートセンシングを活用し、可変施肥による生育の均一化や収穫順の調整を行う。
収量・水分データを乾燥調製施設へ持ち込む前に事前に共有することで収穫・受入の効率化を図る。
生産履歴・作業軌跡のデータを集約し、組合内で共有・分析することで経営の効率化を図る。

経営上の課題

- ・秋まき小麦は、収穫時の天候で作柄が大きく変わり、特に当該地域で導入が進んでいるコムギ縞萎縮病抵抗性品種「ゆめちから」は穂発芽性が高く、収穫期の降雨により、品質の低下を招くことから、迅速な収穫、乾燥調製施設への集荷の効率化が重要

スマート農業技術を活用した生育の均一化や
収穫作業の効率化を図る必要

申請者：

しもしかおい

下鹿追コンバイン利用組合（北海道鹿追町）

対象品目：

秋まき小麦

スマート農業技術：

衛星リモートセンシングの活用

収量コンバインによるデータ取得

農作業自動記録システム＋高精度測位サービス

新たな生産方式：

上記のデータを組合内で共有・分析し、
栽培管理や収穫作業、労働投入量の分析に活用

活用予定の支援措置：

補助事業の優遇措置

計画の概要

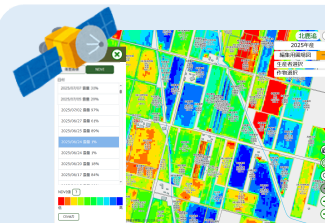
スマート農業技術

衛星リモートセンシング

収量コンバイン

農作業自動記録システム
＋高精度測位サービス

新たな生産方式



穂水分を計測し
組合内で収穫順を調整



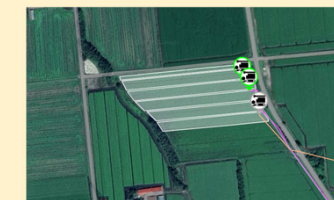
データに基づく追肥
により生育を均一化



収量データに基づいた
施肥により生育を均一化



収量・水分の情報を
乾燥調製施設と共有し
受入・収穫を効率化



圃場ごとの労働時間
や作業軌跡を集約し
労働投入量を分析

組合内で分析し、次年度の営農計画や作業体系を最適化